

HOW TO USE A BADGE MACHINE

バッジマシンの操作方法

Kカッター・操作手順	1
バッジマシーン各部の名称	2
バッジマシーン・操作手順	3~6
アタッチメントの取り外し方	7
アタッチメントの取り付け方	8
故障かな？と思ったら（うまくプレスできない）	9
メンテナンス方法・バッジ制作に失敗した時は・よくあるご質問	10
原稿制作・印刷時の注意点	11



Kカッター

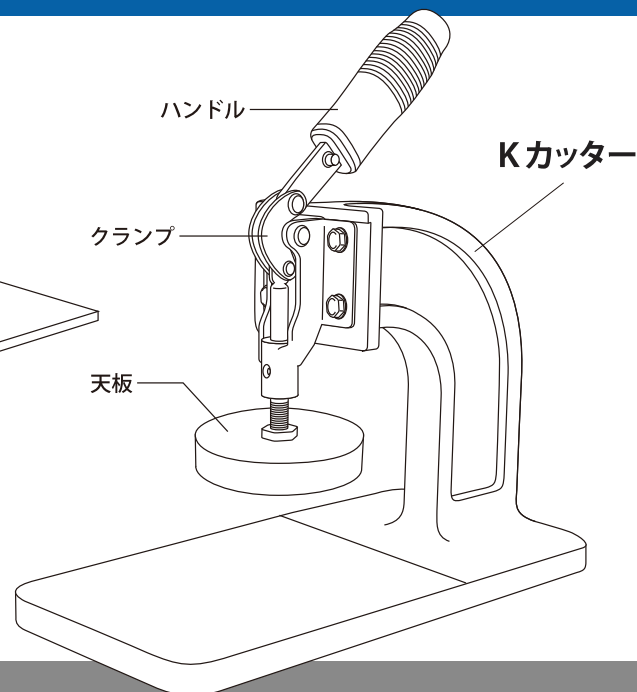
Kカッターブレード

※ Kカッターブレードは種類によって形状が異なります。

Kカッター用 カッティングマット

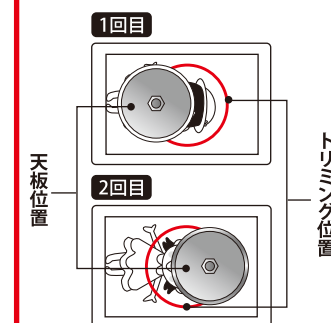


Kカッターブレードは刃物ですので、取り扱いには注意してください。



φ 65mm・φ 75mmの場合

下図のように、天板の位置をずらし、2回に分けてプレスするとキレイにカットできます。



注意

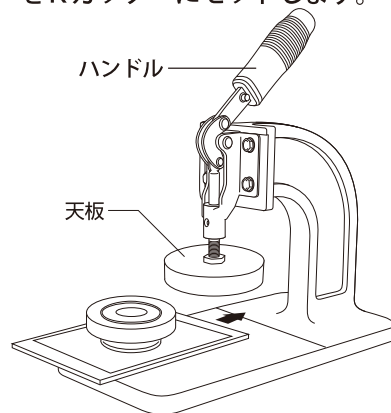
操作手順 (原稿をカットします。)

- 1** Kカッター用カッティングマットの上で、Kカッターブレードを使い、原稿のトリミングを決めます。



Kカッターブレードの刃部と背部を間違わないようにセットしてください。

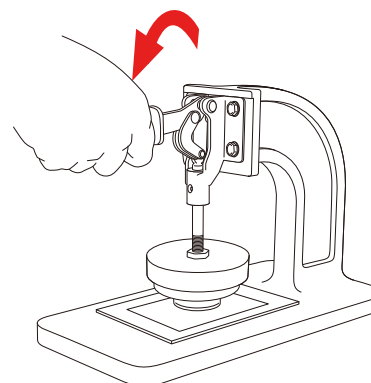
- 2** Kカッター用カッティングマットをKカッターにセットします。



※ Kカッターブレードの中心を天板の中心でプレスできる位置にセットしてください。

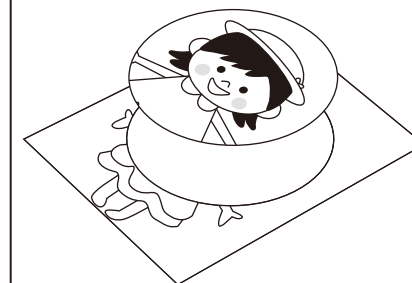
- 3** ハンドルを倒してプレスします。

φ 65mm・φ 75mmの場合は上図をご参考にプレスして下さい。

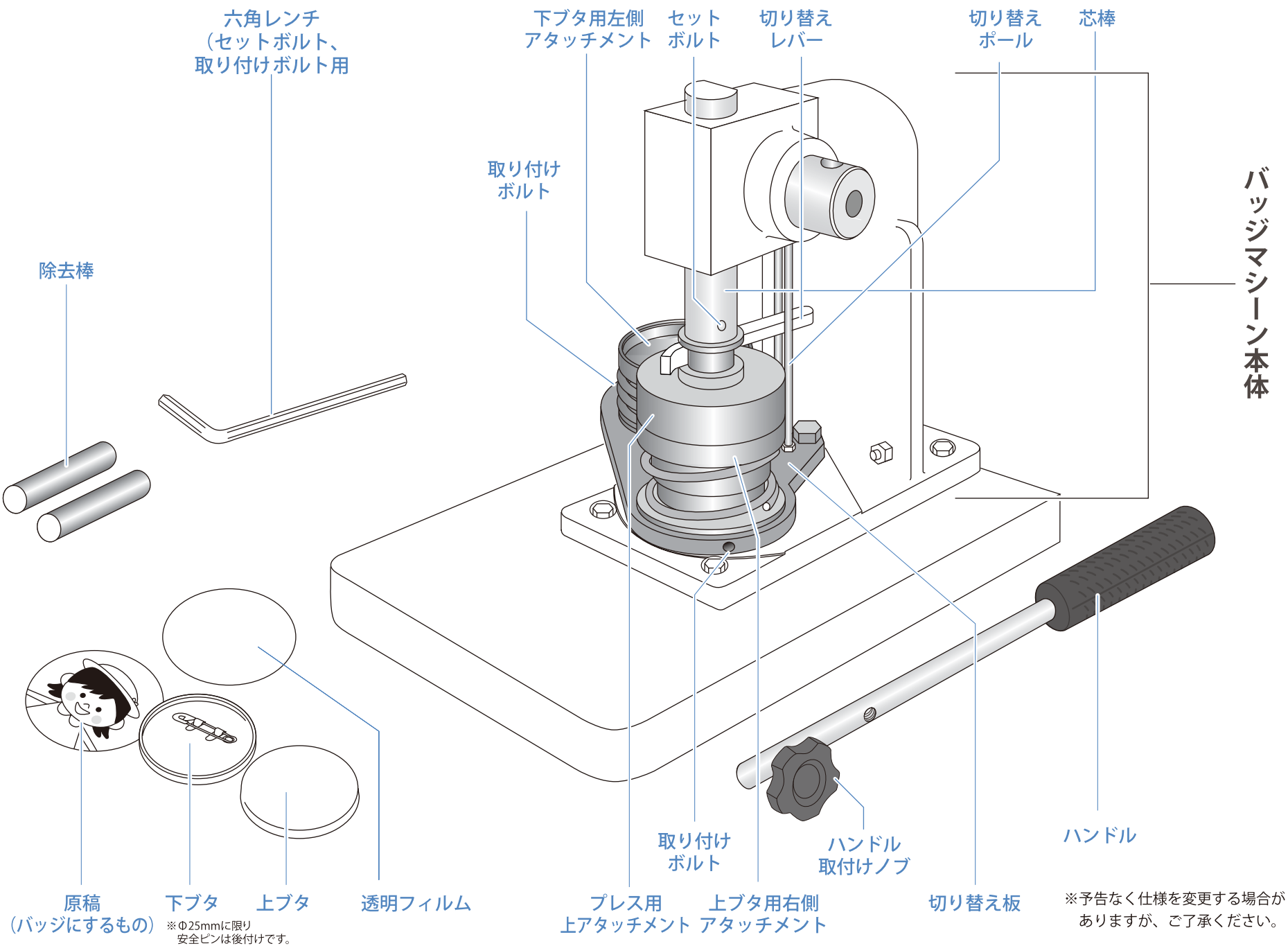


※あまり強く力を入れすぎないように注意してください。強く力を入れすぎると、KカッターブレードがKカッター用カッティングマットにくい込み、取れにくくなる場合があります。

- 4** ハンドルを上げ、原稿を取り出すとカットされています。

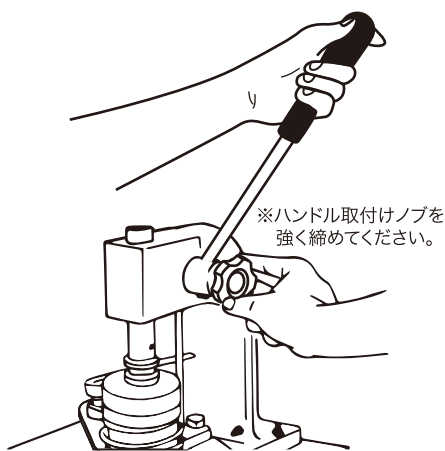


バッジマシン各部の名称

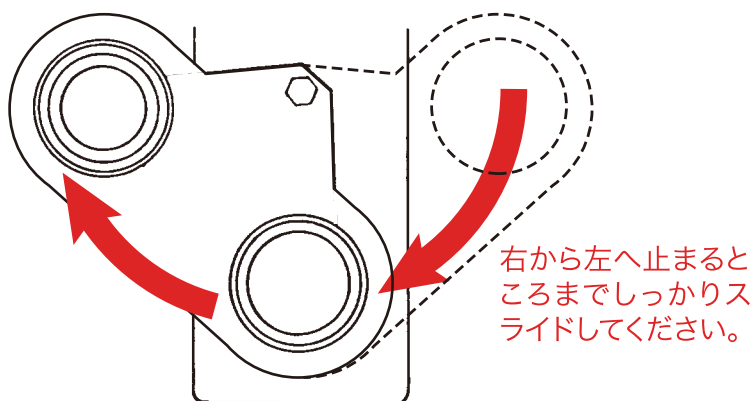


バッジマシーン・操作手順

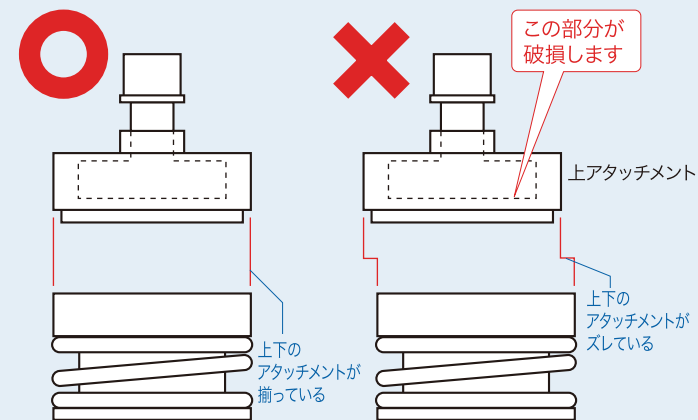
1 ハンドルを取り付けます。



2 上ボタン用右側アタッチメントがプレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。



ズレたままプレスすると、故障の原因となります。



3 アタッチメントに、上ボタン、原稿、透明フィルムの順に乗せます。

※この時、アタッチメントの枠からずれないようにセットしてください。

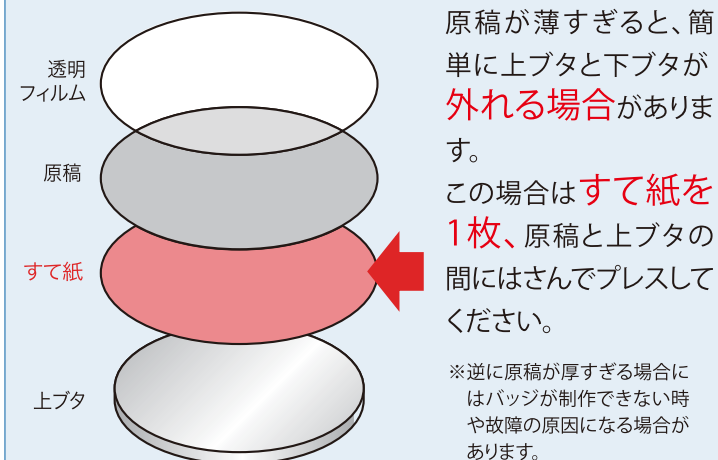
基本セッティング例

③透明フィルム
※一枚だけセットします。

②原稿
※原稿は表面を上にしてセット。
※Aの方向から見て(機械を正面から見て)、まっすぐになるようにセット。

①上ボタン
※お皿の開いた側を下に向けるような形でセット。

原稿が薄すぎる場合

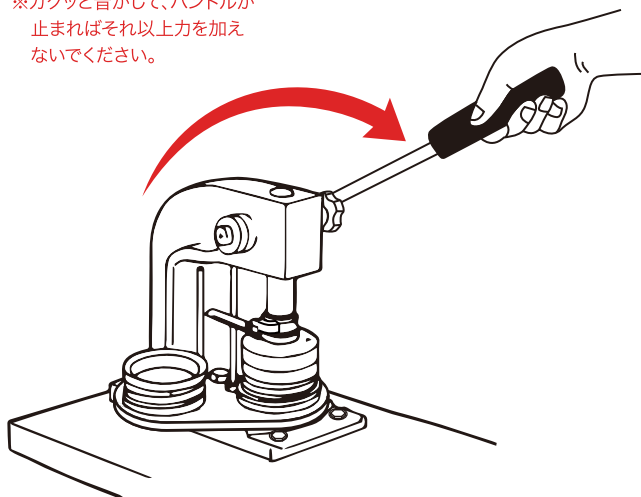


※逆に原稿が厚すぎる場合にはバッジが制作できない時や故障の原因になる場合があります。

バッジマシン・操作手順

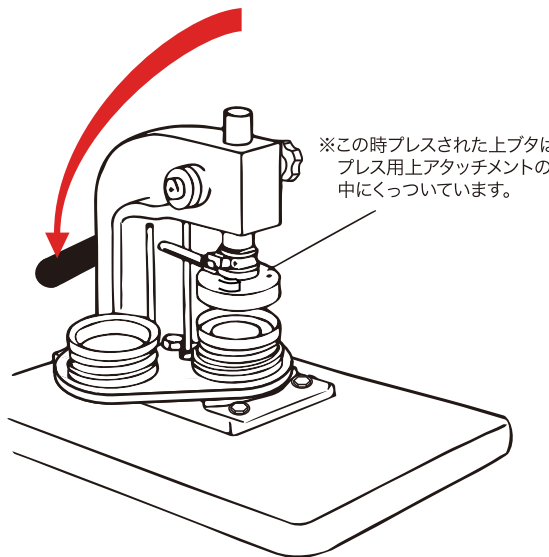
4 ハンドルを押し下げ、プレスします。

※ガクッと音がして、ハンドルが止まればそれ以上力を加えないでください。



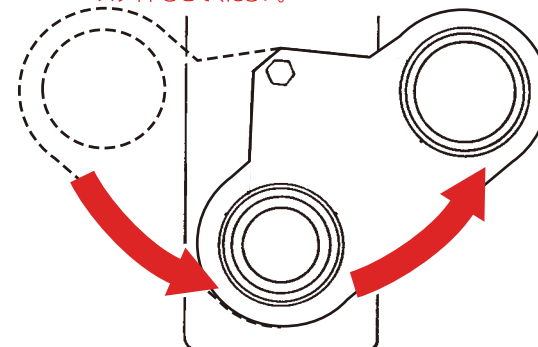
5 ハンドルを戻します。

※この時プレスされた上ボタンはプレス用上アタッチメントの中にくっついていきます。



6 下ボタン用左側アタッチメントが、プレス用上アタッチメントの真下にくるようにセットします。

※アタッチメントは左から右へ止まるまでスライドさせてください。



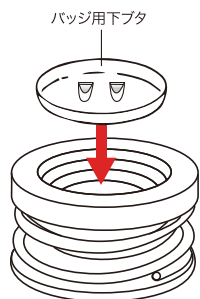
しっかりスライドさせないと、故障の原因となります。

前ページ 2 参照

7 下ボタンを下ボタン用左側アタッチメントにセットします。

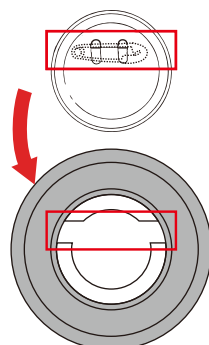
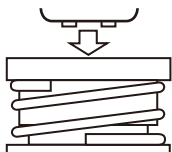
■バッジ、連結バッジの場合

Φ31mmのみ



図のように、機械を正面から見て安全ピンの取り付け穴がまっすぐなるようにセットします。

※上下の向きは右図のようにセットします。
※φ40mm、φ54mm、φ65mm、φ75mmの下ボタンは安全ピンが付いています。

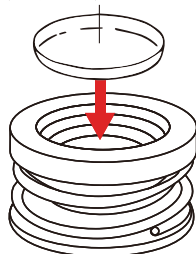


溝に安全ピンが収まるようにセットします。

※上図の形状ではないアタッチメントをご使用の場合、安全ピンはプレス後の取り付けになります。
(2017年以前に製造のアタッチメント)

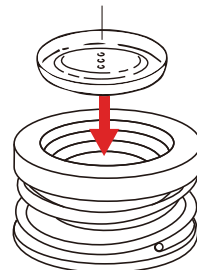
■キーホルダー、マグネット、ミラー等の場合

キーホルダー用の下ボタン
(フラットタイプ)



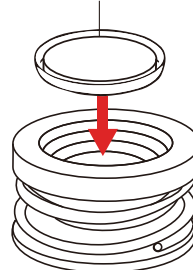
※上下の向きは右図のようにセットします。

マグネット用の下ボタン

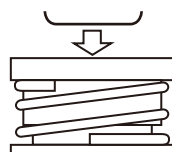


※図はφ54mmの下ボタンです。

ミラー用の下ボタン

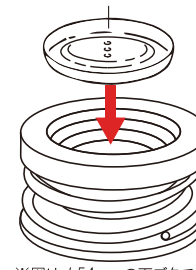


ミラー面が裏側になるようにセットします。



■クリップ・ピン付きの場合

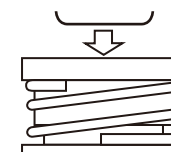
クリップ・ピン付バッジ用の下ボタン



※図はφ54mmの下ボタンです。

図のように、機械を正面から見て、窪みが一直線に並ぶようにセットします。

※上下の向きは右図のようにセットします。

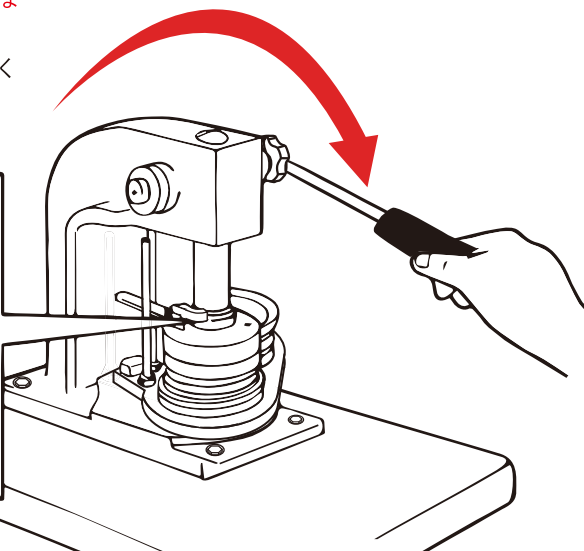
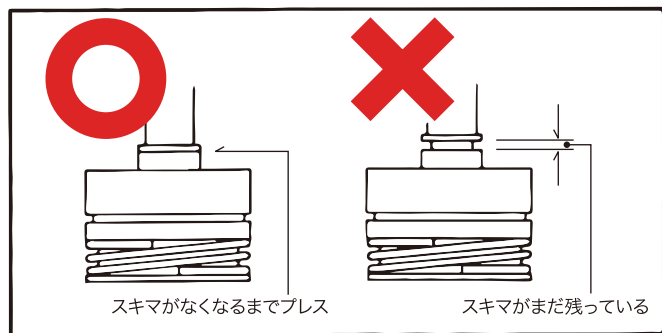


下ボタンの窪みはクリップピンを貼り付ける際の目安としてお使い下さい。
(下蓋の形状はサイズによって異なります。)

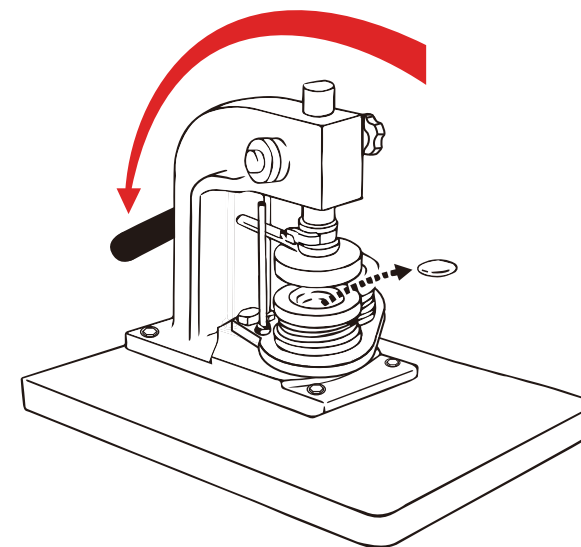
バッジマシーン・操作手順

8 ハンドルを押し下げ、プレスします。

※この時、途中で止めずに最後までプレスしてください。(下図参照)
 ※小学一年生程度の力で簡単にバッジはできますので、**大人の方は体重をかけてプレスするなど、力をかけ過ぎないようにしてください。**
 ハンドルが曲がり、本体が損傷する場合がありますのでご注意ください。



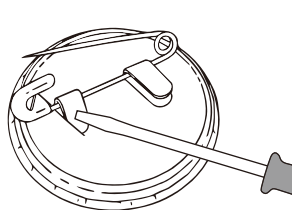
9 ハンドルを戻し、バッジを取り出します。



10 それぞれのグッズに仕上げて完成です。

■φ25mm安全ピンバッジの場合

バッジは裏返し、アタッチメントに付属のマイナスドライバーを使って添付の安全ピンを取り付けます。

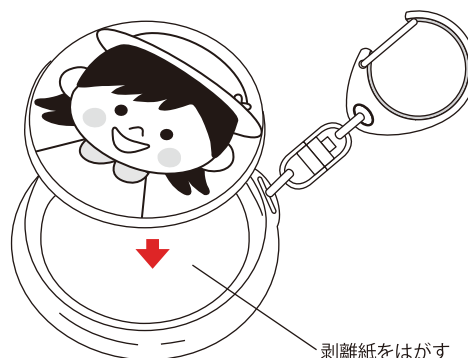


安全ピンの取り付け向きを間違った場合
 使用できなくなります
 ご注意ください。

※φ31mm(2017年以前に製造のアタッチメントをご使用の場合を除く)、
 φ40mm、φ54mm、φ65mm、φ75mmのバッジは
 最初から安全ピンが付いていますので、この作業の必要はありません。

■キーホルダー、フックホルダー等の場合

バッジをホルダー本体に貼り付けます。



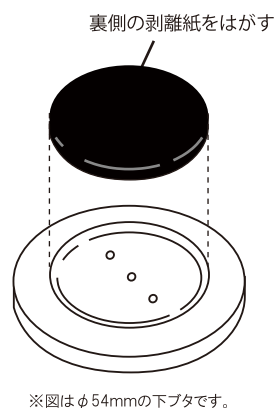
■連結バッジの場合

プラグを本体の穴に取り付けます。



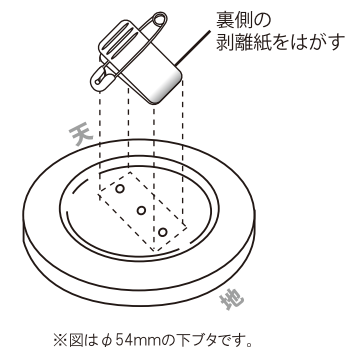
■マグネットの場合

バッジを裏返し、マグネットをバッジに貼り付けます。



■クリップ・ピン付の場合

バッジを裏返し、表面のバッジのデザインが、まっすぐ天地になるように、クリップピンをバッジ本体に取り付けます。

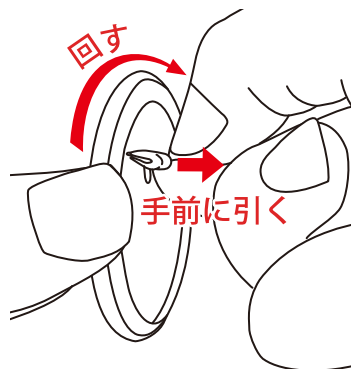


11

基本バッジ完成後、プレス不良が無いか確認してください。

片手で安全ピン、もう片方の手でバッジの上蓋の部分を持ち、上蓋が回ったり、外れたりしないか確認してください。

※金具が曲がる恐れがある為、安全ピンは強く引っ張りすぎないようにしてください。



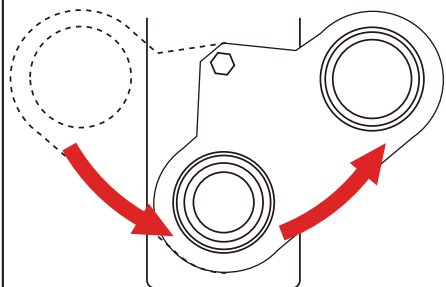
バッジの上蓋が回ったり、外れたりする場合

原稿が薄すぎる場合があります。

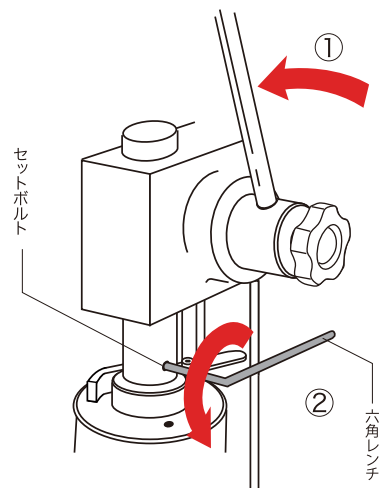
3ページをご覧ください。

アタッチメントの取り外し方

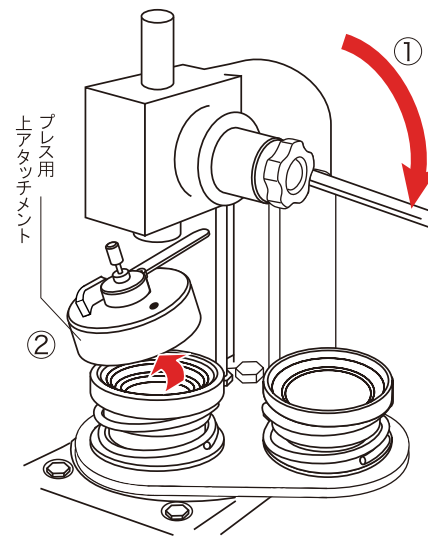
- 1** ハンドルを後ろに倒した状態で下ボタン左側アタッチメントが中央にくるように右側にスライドします。



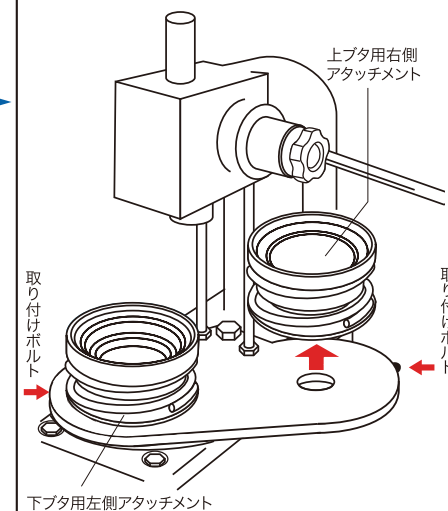
- 2** ハンドルを前へ倒して、プレス用上アタッチメントを下げて、六角レンチでセットボルトをゆるめます。
※セットボルトは固くしまっている場合がありますのでご注意ください。



- 3** ハンドルを後ろへ倒し、プレス用上アタッチメントを取り外します。

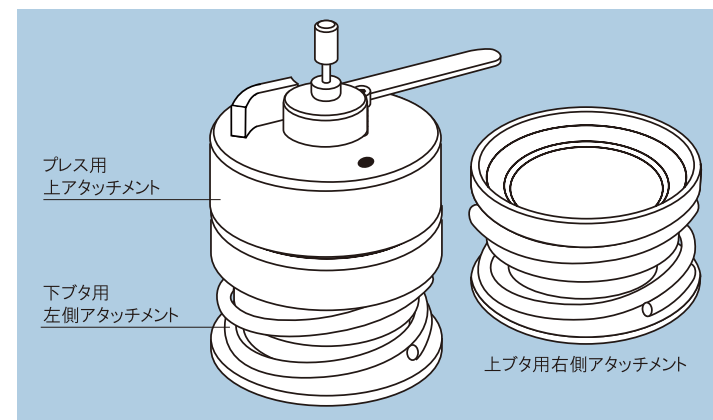


- 4** 下ボタン左側アタッチメントと上ボタン右側アタッチメントを取り外します。
※取り付けボルトをゆるめて、取り外します。



取り外したアタッチメントは丁寧に扱ってください。

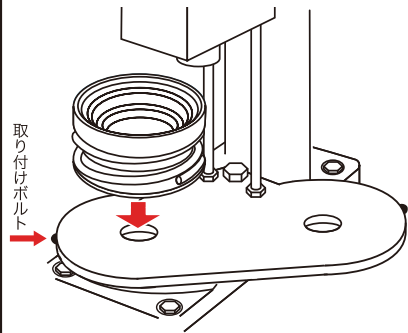
右図のように、プレス用上アタッチメントと下ボタン左側アタッチメントを重ねて、湿度の高い場所を避け保管してください。



アタッチメントの取り付け方

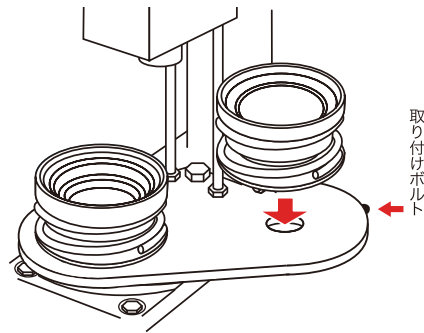
- 1** 下ボタン用左側アタッチメント（くぼみの深い方）を左側に取り付けます。

※取り付けボルトをしめ、固定します。

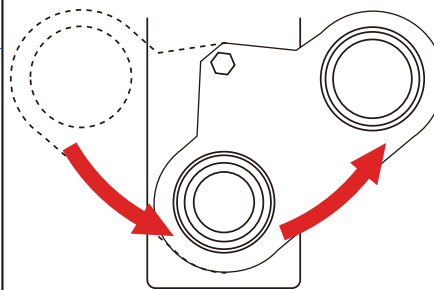


- 2** 上ボタン用右側アタッチメントを右側に付けます。

※取り付けボルトをしめ、固定します。

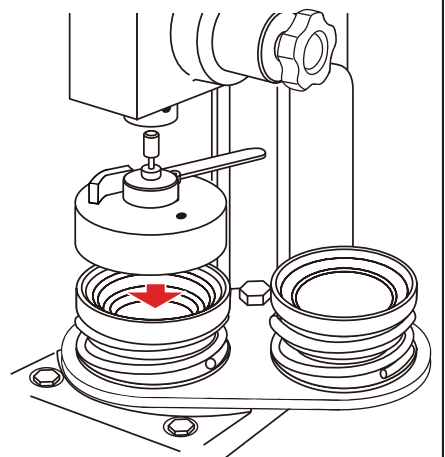
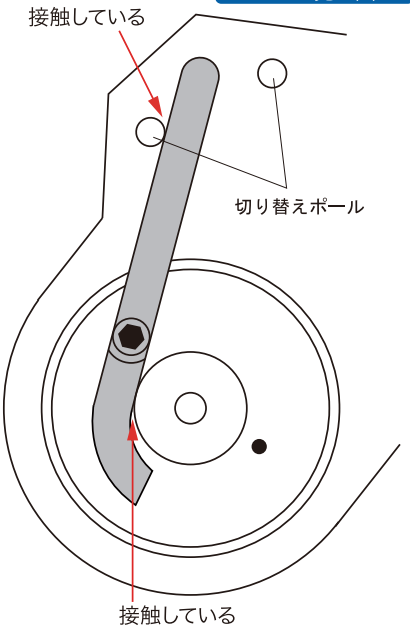


- 3** ハンドルを後ろに倒した状態で下ボタン用左側アタッチメントが中央にくるように右側にスライドします。

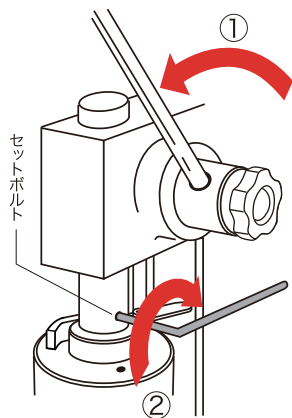


- 4** 下ボタン用左側アタッチメントの上に、プレス用上アタッチメントを乗せ、図の位置にセットします。

上から見た図

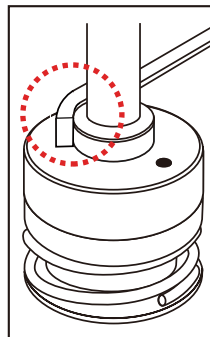


- 5** ハンドルをおろし、六角レンチでセットボルトをしめます。



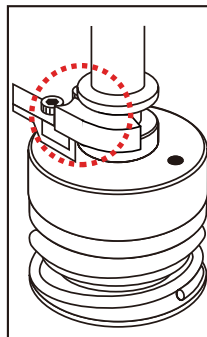
- 6** 下図のようになっていることを確認します。

下ボタンをプレスする時



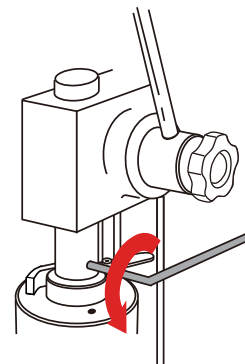
切り替えレバーが外れている

上ボタンをプレスする時



切り替えレバーがかんでいる

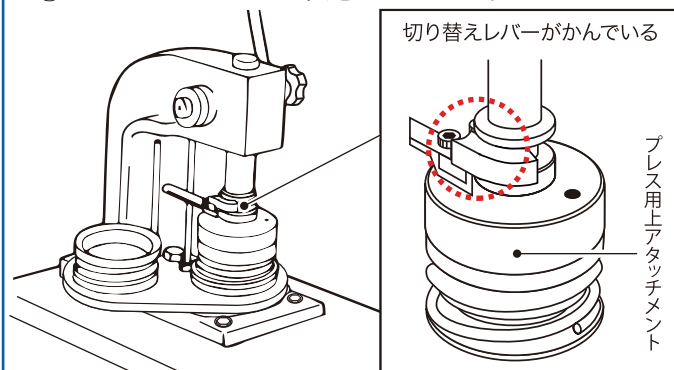
- 7** 切り替えレバーが6図のようにならない時は、セットボルトをゆるめて4～5の作業をやり直してください。



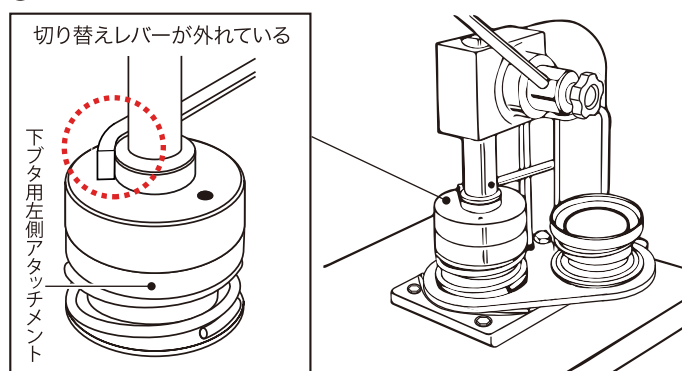
故障かな？と思ったら(うまくプレスできない)

アタッチメントが正しくセットされているかをチェック

①上ボタンをプレスする状態でチェック。



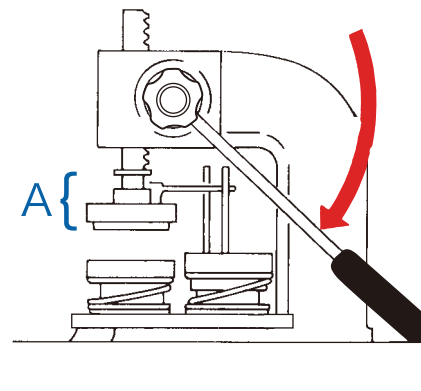
②下ボタンをプレスする状態でチェック。



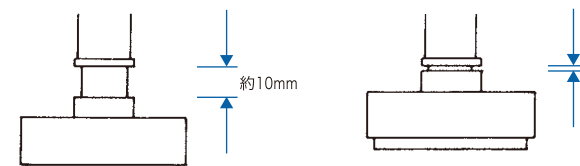
上図のようになっていなければセットし直します。

前ページの「アタッチメントの取り付け方」を参照し、3～7の手順でセットし直してください。

透明フィルム等がプレス用上アタッチメントに詰まっているかをチェック



ハンドルを戻し、プレス用上アタッチメントを上げた状態でA部をチェックします。



◆正常な時

このスキマが約10mmの間隔

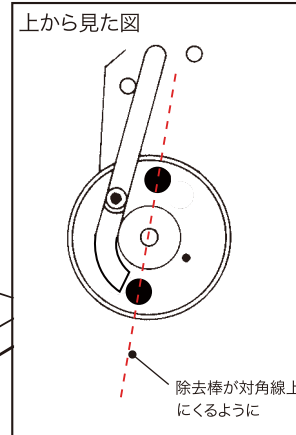
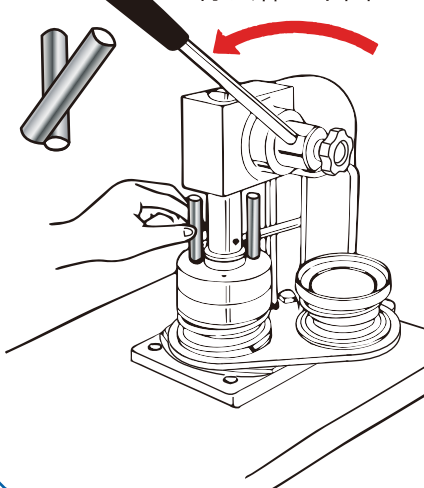
◆詰まっている時

スキマがない。
もしくは10mm以下である

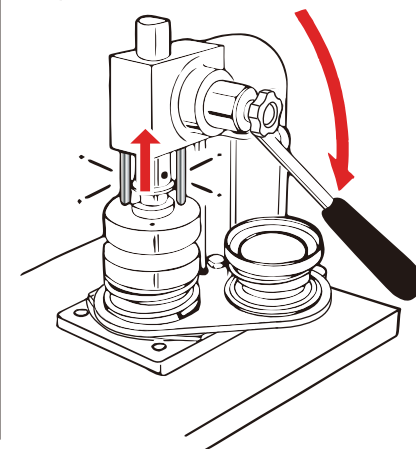
詰まる予想原因: ①透明フィルムを2枚以上使った時
②原稿が厚すぎたり、固すぎた時 等

詰まっている透明フィルム等を取り除きます。

①ハンドルを手前に倒し、
除去棒を下図のように置きます。



②ハンドルを戻します。これで詰まっていた透明フィルム等が取り除けます。



※上記の方法でも状況が改善しない場合は、点検・修理が必要な場合がございます。

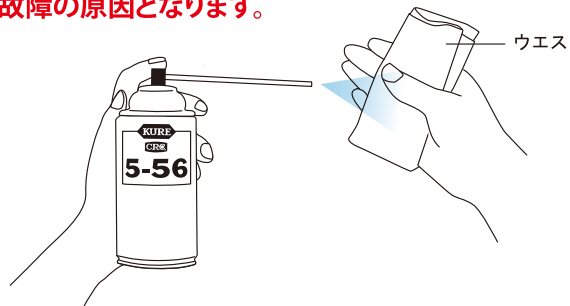
メンテナンス方法

【メンテナンス前のご準備】

アタッチメントを取り外し(P.7参照)ウエス(布)に浸透潤滑剤
(推奨品：呉工業株式会社製 KURE CRC5-56)を軽く含ませてください。

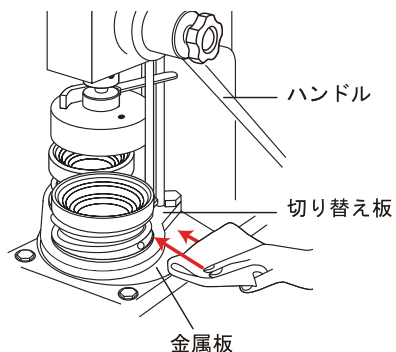


※浸透潤滑剤を機械に直接吹き付けしないで下さい。
故障の原因となります。



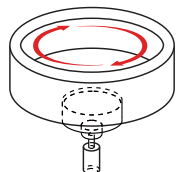
【バッジマシーン】

ハンドルを後ろに倒した状態で、
切り替え板を左右にスライドし、
ウエス(布)で切り替え板の下
の金属板を拭き取ってください。

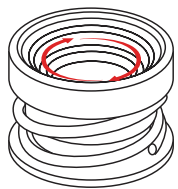


【アタッチメント】

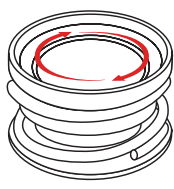
ウエス(布)で取り外したアタッチメントの内側を円を描くように拭き取ってください。



プレス用
上アタッチメント



下ボタン
左側アタッチメント

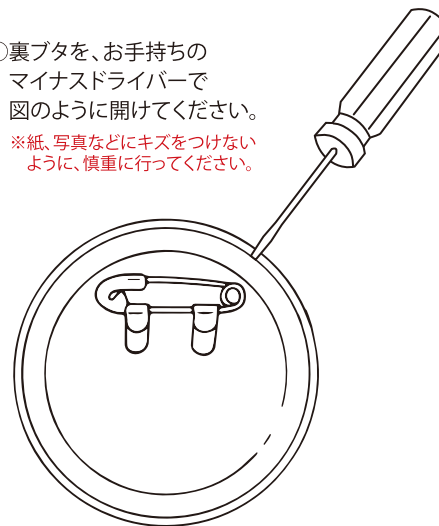


上ボタン
右側アタッチメント

バッジ製作に失敗した時は

①裏ボタンをお手持ちの
マイナスドライバーで
図のように開けてください。

※紙、写真などにキズをつけない
ように、慎重に行ってください。



※失敗したパーツは
使用しないでください。

②次に失敗した紙、写真などのシワをよく
伸ばしてください。そして最初からバッ
ジ作りにかかってください。この時の作
業工程はゆっくりと行ってください。



このシワをよく伸ばしてください。

よくあるご質問

Q.1 缶バッジのパーツは何個から販売していますか？

A. 缶バッジのパーツは100個単位で販売しております。

Q.2 どんな素材が缶バッジにできますか？

A. 基本的に紙であればほとんど缶バッジに出来ます。特殊な素材を
缶バッジにしたい場合は事前にご相談ください。

Q.3 バッジマシーンが故障した場合はどうなりますか？

A. 故障したものを送りいただき、修理後に送り返す“センドバック”方式になります。

原稿制作・印刷時の注意点

■推奨用紙（対応用紙については、お手持ちのプリンターの取扱い説明書をご確認ください。）

カラーレーザー用紙	
コート紙（135kg）（紙厚約0.13mm）	
インクジェット用紙	
写真用紙 薄手（紙厚約0.2mm）	

上記の紙を使用していただければきれいなバッジができます。

※推奨用紙はオプションで販売しております。

●カラープリンター出力の場合

薄口用の紙の場合は簡単に上ボタンと下ボタンが外れる場合があります。
この場合は紙を1枚原稿と上ボタンの間にはさんでプレスしてください。

■バッジデザイン作成時の注意点

- ①バッジを作る場合、実際のバッジ寸法の他に巻きしろが必要となります（抜き寸法）。
背景などはここまで塗り足しをつけてください。
- ②製造の過程で少しのズレが生じる場合がありますので、主要なデザインは仕上がり寸法（点線）より1mm程度内側（デザイン寸法）に配置してください。（印刷する場合はこの2つの点線はプリントしないでください。）
- ③外円の天地から内側へ2mm程、トンボ（実線）を入れてください。
※バッジを作るときに天地の基準となる線です。必ず入れてください。
- ④バッジの外円（実線）と外円との間隔を6mmとってください。

弊社ホームページにデータ作成用テンプレートをご用意しておりますので、目的に合ったサイズをお選びの上、ご使用ください。→<https://www.daiki-peck.co.jp/template/>

